



小学部



幼稚部

学習発表会

～ 秋襲祭 ～

テーマ
「一致団結 ～23人の力を合わせよう～」



高等部



中学部

無花果

No.193

令和5年12月25日発行
発行 秋田県立聴覚支援学校
秋田市南ヶ丘一丁目1番1号



積み重ね つみ重ねても

教頭 小玉 幸子

「積み重ね つみ重ねても またつみかさね
その積み重ねの上に花が咲く
その積み重ねの果てに実が熟す
積み重ねていくことで見える景色がある」

これは、東京タワーの設計者として知られ、耐震構造理論の生みの親である建築家 内藤多仲氏の言葉です。

本校は今年度、学校創立百十二年目を迎えました。全県一校の聴覚支援教育の拠点として変化を遂げながら歩んできた長い歴史に、深い感慨を覚えます。さて、今夏、高等部生が「第十回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」に初挑戦し、見事に鳥取県での本選出場を果たしました。専攻科生が「一丸となって後輩をバックアップする姿も印象的であり、まさに「秀丽」なる県民歌のパフォーマンスとなりました。全校で感動を共にし、大いに盛り上がった出来事でした。

その後、十月の学習発表会では全校幼児児童生徒が、ダンス、カラーガード、手話による歌唱を組み合わせて、「秋田」を表現するフィナーレを作り上げました。ものごとをつなげる、言葉をつなげる、心がつながる。そんな取組になったと思います。各学部が行ったステージ発表や催しからは、一人一人の意欲と成長、達成感、心から楽しむ気持ちが伝わってきました。「秋襲祭」は、互いに学習の成果を実感し、学びの喜びを分かち合う場になっていることをあらためて感じました。さらに、県高等学校総合文化祭総会開会式、「であいのこんさあと」、県特別支援学校文化連盟「わくわく Show time」と、表現活動を発信する機会が続きました。新しい経験を重ねる姿はたくましく、胸を打つものがありました。

本校には、多くの卒業生、教職員、保護者、関係者と共に積み重ねた土台があります。その上に立ち、足元を見つめながら実践を重ねることで、新たな景色が展望できるものと思います。来る年も、これまでの積み重ねの上に大小さまざまな成果が積み重ねられ、希望あふれる聴覚支援学校であるように願っています。

幼稚園

「かぐやひめ」だいせいこう！

大滝 侑子



五人の子どもたちが、かぐや姫、おじいさん、貴公子に扮して「かぐやひめ」の劇を発表しました。予行、本番と少し緊張した様子の子どもたち。しかし、いざ発表がはじまると、幼稚園や家庭での練習の成果を發揮し、大きな声や手話で堂々と発表することができました。また、上手にバランスをとってプロップを渡ったり、ナレーションや難しいダンスに挑戦したりと、幼稚園みんなで作りに上げた、かわいらしいステージになりました。

小学部

「どうぶつえんにいこうよ」修学旅行の思い出」

伊藤 直美



今年度は、四月から練習を重ねてきたギターとカホンの楽器演奏とカラーガードを披露しましたが、本番は素敵なハーモニーを響かせることができました。カラーガードでは、修学旅行で訪れたデイズニードに合せて二種類の旗を使い、パフォー「三人でタイミングを合わせて旗を振ることができた」などの感想が聞かれました。



高等部

「Road to Performance in Totori」

川村 雅子

この劇は、全国高校生手話パフォーマンス甲子園の予選に参加するまでの、実際にあった葛藤や気持ちの変化を青春ドラマ風に脚色したものです。秋田県民歌の手話表現は高等部生が、劇の演出は専攻科生が試行錯誤して作り上げました。本番直前まで、状況に沿った役の気持ちの変化をどう表すか、自分たちで考え、意見をぶつけ合いました。本番を終えた十人全員が「全力で演技できた」「役になりきっていた」「満足できた」と清々しい笑顔でした。



中学部

「Color色とりどりの世界で」

熊谷 花菜



中学部

大盛況だった生徒会展

中学部三年 中島 琴音

今年度は、四月から練習を重ねてきたギターとカホンの楽器演奏とカラーガードを披露しましたが、本番は素敵なハーモニーを響かせることができました。カラーガードでは、修学旅行で訪れたデイズニードに合せて二種類の旗を使い、パフォー「三人でタイミングを合わせて旗を振ることができた」などの感想が聞かれました。



高等部

笑顔であふれたコスプレ喫茶

高等部三年 伊藤 蘭丸

今回はコロナ禍前と同じような形で生徒会展を行うことができました。お客様に楽しんでもらえるように、コスプレ喫茶を企画しました。たくさんお客様がいらっしゃいました。一人一人に丁寧に対応できたと思います。お客様の笑顔が見られ、この企画に決めて良かったと嬉しく感じました。



生徒会活動

各学部の学習・行事コーナー

幼稚園部

秋の遠足

児童会館「みらいあ」

中野 純子

十一月七日、秋の遠足に行ってきました。今年の秋の遠足の行き先は秋田県児童会館「みらいあ」。プラネタリウムを鑑賞する予定でしたが、故障のため残念ながら観ることができませんでした。それでも、広い館内にある様々な遊具で思いっきり遊んだ子どもたち。特に、一階のレクリエーションホールでは、滑り台を滑ったり、タッチゲームで遊んだり、たつぷり体を動かしました。コロナ禍で幼稚園に帰って食べていた昼食も、今年は部屋を借りて食べることで済みました。おうちの方の手づくり弁当の味も格別だったことでしよう。また一つ楽しい思い出が増えましたね。



小学部

楽しかった修学旅行

加藤 深湖

六月二十二日、二十三日は仙台市、大崎市方面に視覚支援学校と合同で修学旅行に行ってきました。事前学習では、現地のことを調べたり、先生方にインタビューをしたりしながら期待感を高めていました。一日目は楽しみにしていた八木山動物公園、八木山ベニランドへ公共交通機関を使って行きました。長い距離を歩く経験が少なかつたため、「大丈夫かなあ」と体力を心配していましたが、一日目はなんと十キロメートル以上歩くことができました！楽しみにしていたずんだシェイクも飲むことができました。二日目は新幹線はやぶさに乗ったり、感覚ミュージアムに行ったり、カリンバを作ったりしました。あつという間の二日間でしたが、聞いて、感じてながら、特別な時間を存分に味わうことができました。



中学部

経験が広がった修学旅行

中野 あかね

六月二十八日から三十日まで、二・三年生三名で、東京・千葉方面に修学旅行に行ってきました。

東京の観光名所見学や江戸切り制作体験、東京ディズニーランドでの活動や原宿・品川の自主研修、ICカードを使用した電車利用等、秋田での生活ではできない多くの経験をさせていただきました。生徒の振り返りでは、「東京は大きな建物がたくさんあった。運転手がない電車もあった」「予算を考えながら買い物するのに苦労した。計画する力が大切だと思った」「CAさんがメモで案内やドリンクメニューを見せてくれて、分かりやすかった」等が挙げられ、経験を通してたくさんの学びを得た修学旅行になりました。



高等部

手話パフォーマンス

甲子園への挑戦

皆川 歩

鳥取県で開催された第十回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に高等部五人が出場しました。秋田の豊かな魅力を広めたいという思いから決まった演目「秋田県民歌」。しかしこの歌には手話表現がありませんでした。「きょうらんほえたつ：」最初は指文字でしか表現できませんでした。どうすれば秋田の魅力を存分に表現できるかを考え、一から作り上げました。不安な表情が多かった生徒たちも練習を重ねるうちに笑顔が増え、表現する喜びがあらふれ出していました。陰で支えてくれた専攻科生の思いと共に臨んだ本番。観客の笑顔や割れんばかりの拍手から達成感を得たようでした。生徒にとって将来背中を押してくれるような財産になったと感じています。



支援部

難聴児童交流会・

一側性難聴のつどい

渋谷 宏美

難聴児童交流会を七月八日(土)に行いました(本校児童を含め十七名参加)。「トイレットペーパー積み」などの活動で交流した子どもたちは、会が終わる頃には打ち解け、「また参加したい」等の嬉しい声が沢山聞かれました。先輩保護者の「子育て体験談」を伺った保護者部会では、「部活や高校受検など、今後の学校生活に役立つ情報が得られた」と話した保護者の方が多くいらつしやいました。また、夏季休業中に実施した『一側性難聴のつどい』では、平鹿中三年の高野さん(当事者)親子の体験談を伺い、「わが子の支援に必要な情報や元氣をもらえた」等、参加された皆さんを勇気づけるお話を伺う機会となりました。



奇宿舍

第二回 合同余暇活動

佐藤 玲子

今回の合同余暇活動は、視覚支援学校寄宿舎生三名と本校寄宿舎生五名の計八名で、ユニバーサルスポーツ「ボッチャ」を楽しみました。当日は、寄宿舎の二階多目的スペースがコートに早変わりし、ボール一投ごとに、「すごい」「いいぞー」と歓声が上がりました。二つのチームは、視覚と聴覚の合同チームで、いかにして的であるジャックボールに近づけるか戦略を話し合いながらも、和やかな雰囲気の中で楽しい交流の時間となりました。



PTA研修 事業所見学

十一月一日に福祉サービス事業所の見学を行いました。東通にある就労支援B型事業所「きらっと」は、一階がグループホームで、二階では利用者さんが企業の商品を詰める化粧箱作りを行っていました。利用時間も過ぎし方も個々のニーズに沿って計画されていました。中通にある「(株)HSS」は、通販



ニユース・トピックス

◎第二十八回秋田県トラック協会 絵画コンクール
努力賞 小学部五年 高橋 卓弥

◎令和五年度東北地区聾学校体育大会(青森)【卓球】

一部 男子団体 第一位 秋田・山形・福島連合

男子個人 第三位 沼倉 蓮

二部 男子個人 第一位 松本 拓己

女子個人 第一位 長門 里紗

第二位 門脇 紗南

第三位 畠山 朱里

◎第六十回記念全国聾学校卓球大会

二部 男子個人 第一位 松本 拓己

女子個人 第一位 長門 里紗

第三位 畠山 朱里

◎全国高校生手話パフォーマンス甲子園

奨励賞 高等部一・二・三年生

◎令和五年度知事と語らう未来の秋田 意見交流参加

中学部二年 高橋 結乃

◎第二十二回秋田県障害者技能競技大会

【ワードプロセッサ部門】

金賞 高等部専攻科二年 松本 拓己

銅賞 高等部専攻科一年 長門 里紗

◎第二十七回全国聾学校絵画展

佳作 幼稚部ゆり組 塚本 将矢

◎第四十四回「であいのこんさあと」

【詩部門】

入選 高等部一年 藤田 泰輝

◎第二十一回わくわく美術展

【絵画作品部門】

佳作 幼稚部ゆり組 金 蓮生

【自由作品部門】

入選 小学部四・五・六年生

◎令和五年度みんなの写真展

入選 高等部一年 藤田 泰輝

高等部専攻科一年 長門 里紗

◎第五十六回秋田県高等学校総合美術展

推奨 高等部二年 沼倉 蓮

◎第十五回新聞きりぬきコンクール

優秀賞 高等部専攻科二年 松本 拓己

佳作 高等部専攻科二年 伊藤 玲央

の業務委託を受けて作業していました。一般就労を目指しながら各自の都合に合わせて作業をし、工賃を受け取るのことでした。参加した三名の小学部の保護者からは、「知らないことがたくさんあって勉強になった」「気になっていたグループホームを見学できてよかった」「施設の入所とグループホームの違いをもっと知りたい」「来年もぜひ参加したい」という感想が聞かれました。